

私は、7月25日～8月3日の10日間、独立行政法人国立青少年教育振興機構の平成28年度ミクロネシア諸島自然体験交流に参加しました。

私は、海外に行くのも、飛行機に乗るのも初めてでしたが、今までガールスカウトでキャンプなどの野外活動をしたり、団の外の事業で初めての人と一緒に活動して得た経験を活かして、「今の自分に出来ること」「これからの自分に必要なこと」を考える機会にしたいと思いました。また、地理や歴史が好きなので、日本から遠く離れたマーシャル諸島の自然や文化、そこに住む人達がどんな生活をしているのか、また日本との違いを知りたいと思い応募しました。

参加者はパラオやチューク、マーシャルに分かれますが、私はマーシャルチームでした。チームの仲間は5年生～中学2年生の男女16名。初めは緊張しましたが趣味や特技、好きなことなどの共通点を見つれたりするうちに、すぐに仲良くなりました。私達のチームの目標は「伝えたいという気持ちを持って話しかけ、たくさんの友達を作ろう!」でした。私個人としては、「何事にも積極的にチャレンジする!」と目標を決めて活動しました。

マーシャルの人達はみんなフレンドリーで私達を見かけると笑顔で「Iakwe(ヤッコエ)」「(こんにちわ)」と声をかけてくれました。日本とは昔から組工用の貝の貿易などで交流があり、第1次世界大戦後には日本に統治されていた歴史があります。近年、JICAなどが経済・環境・保健・教育などの分野で協力しており、一般的にマーシャルの人達は日本に親近感を持っているそうです。

活動に入る前に大使館とJICAの方から、行っている活動や文化や歴史について教えていただきました。その後、平和学習のためピースパークに行き、領事の方から戦争に関する事について話を聞きました。その中で私が一番バに残ったのは太平洋各地で戦没された方々の遺骨の収集活動の話でした。いまだに約9500人の方々の遺骨が自分の国、家族のもとに帰ることを待っていると聞いて、胸が詰まりました。そのあと近くの海岸で清掃活動をしました。きれいな海が広がる一方で、海岸には至る所にビンや缶、おかしや袋、サンダルやタイヤ、車までが捨てられていて、とても驚きました。マーシャルには日本のようなゴミ処理場がなく、集められるゴミも分別されずに埋め立てられ、環境への影響など大きな課題となっています。

また、水道水が安全ではないということも日本との大きな違いの1つです。マーシャルには日本のような浄水場がなく、水を飲むためには雨水を貯めて沸かしてから使います。また、風呂・洗濯などの生活用水として少しずつ大切に使っています。ホームステイ先のお母さんが皿洗いをするとき、こまめに水を止めていたのを見て、マーシャルの人達にとって、水はとても貴重なものだと思います。

無人島体験では、マーシャルの子ども達とビーチバレーやシュノーケリングを一緒に楽しんだり、伝統的な踊りを教えてもらいながら交流を深めました。その後、2人1組で1泊のホームステイもしました。英語が話せないのも、とても不安でしたがホストファミリーが優しく接してくれ、簡単な英語とジェスチャーでどうにか乗り切ることが出来ました。

今回の事業での活動、マーシャルの人達との交流を通して、歴史や文化と自然環境は深く関係しており、それらの違いによって生活様式が異なることを学びました。

私個人の目標とした、「何事にも積極的にチャレンジする」では、参加者の年長者だったので、年令がFの子のサポートやミーティングの時に、チームの意見をまとめたり、マーシャルの最後の交流会では、チームを代表して感謝のスピーチに英語で挑戦し、とても良い経験になりました。

外から日本を見てみると当たり前と思っていたことは、当たり前ではなく色々なことは全てつながり、影響し合っていると知りました。だからこそ、他の国のことにも関心を持ち、1人1人が自分の行動に責任を持つことが大切だと思いました。

今回学んだことを今後の生活に生かすとともに、マーシャルの人の少しでも役に立つように、団や家族、学校の友達はもちろん、多くの人にマーシャルのことを伝えたいと思います。